



住民ワークショップニュース 最終号

まちづくりシンポジウムを開催しました！

まちづくりシンポジウムプログラム

第1部 住民ワークショップの提案発表

第2部 パネルディスカッション

テーマ:「協働による 山梨市のまちづくり」

～パネリストによる対談・会場意見交換～

日時:2025(令和7)年10月25日(土)

午後2時00分～4時00分

場所:山梨市民会館 3階 303 会議室

2025(令和7)年10月25日、山梨市民会館3階会議室において、「山梨市制施行20周年記念事業 山梨市都市計画マスタープラン まちづくりシンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムは、山梨市都市計画マスタープランの策定にあたり、住民ワークショップの成果を市へ提案する場であるとともに、山梨市の将来について多くの市民と考える機会として開催したものです。

住民ワークショップは、2025(令和7)年1月から計4回にわたり、地域のまちづくりに向けた議論を重ね、参加者の想いを結集した「まちづくり住民プラン」を取りまとめ、今回、その集大成となる場を迎えました。

当日は初秋の冷え込みの中、113名の方にご来場いただきました。



第1部 「まちづくり住民プラン」の提案



●山梨市都市計画マスタープランと住民ワークショップの概要

第1部は、「まちづくり住民プランの提案」が行われました。

はじめに、事務局より、「山梨市都市計画マスタープラン」の概要について説明を行いました。

続いて、ワークショップアドバイザーより、住民ワークショップの概要についての説明を行いました。



●「まちづくり住民プラン」の発表

続いて、各地域で選出した代表者による「まちづくり住民プラン」の発表が行われました。

■笛吹川東地域：みんな大好き学校エリアチーム

- 自然と都市機能が調和した過ごしやすいさを未来につなげていく街、交通利便性を活かしながら、就業の場を増やし、活気に満ちた街が地域の未来像
- 人の流れを取り戻す、子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすいまちづくりが目標
- 山梨市駅南口工場跡地を活用した賑わいの再生、アザレアタウン整備を契機としたハード・ソフト両面の取組 など



■笛吹川西地域：チームちどり

- 西関東連絡道路西側一帯の農地周辺を、市独自のクラインガルテンのエリアづくりとして活用
- 山梨市駅から笛吹川沿いを直結する交通手段の構築
- ハード・ソフト両面による地域の魅力、新たなブランドづくり
- 万力公園やフルーツ公園の活用 など



■牧丘地域：チーム巨峰の丘

- 巨峰の郷の産業・豊かな自然環境・遊休施設の有効利用による、牧丘の良さを活かした観光・交流の促進
- 市営住宅や公民館、古民家、空き家を活用した新たな就業環境の創出
- 県内初の義務教育学校 PR による移住・定住の促進
- 地域へのアクセス交通網やデマンド型交通の利便性の向上 など



■三富地域：まちづくりみとみ

- 自助・共助の地域運営システムの基礎を確立し、行政支援により、人が集まる場・機会の創出が重要
- テーマを関連づけて検討することが必要（福祉コミュニティ機能の多機能化、自助・共助につながる災害対応力の強化と迂回路の確保、豊かな自然を生かした体験・交流型の観光の開発・整備、受入れ体制の構築による地元雇用の創出） など



※「まちづくり住民プラン」は、山梨市 HP に掲載しています

●「まちづくり住民プラン」の提出



提案書「まちづくり住民プラン」の提出です。提案書の内容は、2026（令和8）年度に策定される山梨市都市計画マスタープランへの反映を行うとともに、今後のまちづくりに向けた協働の一步を踏み出すものです。

提出は、ワークショップを代表して、奥井和也さんにより行われました。想いを言葉に託すように趣意文が読み上げられ、高木市長に提案書を提出しました。これまでのワークショップのプロセスが結実したような、晴れやかな場となりました。

第2部 パネルディスカッション



第2部は、「協働による山梨市のまちづくり」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションは、まちづくり住民プランの提案を基調として行われ、ワークショップ代表や各パネリスト、来場者を含めたオープンな意見交換も行う場として位置づけました。



～パネリスト～

※敬称略

- 大山勲（山梨大学名誉教授）
- 北村真一（山梨大学名誉教授）
- 雨宮康治（山梨県県土整備部都市計画課長）
- 武井博（笛吹川東地域代表）
- 樋口美根夫（笛吹川西地域代表）
- 武井實（牧丘地域代表）
- 角田和仁（三富地域代表）
- 高木晴雄（山梨市長）

◇コーディネーター

- 宮武由里子（住民ワークショップアドバイザー）

●ワークショップパネリストからの提案



はじめに、ワークショップパネリストより、地域が目指すまちの姿や特に重視したい提案、専門の各パネリストに伺いたいことなどについて、それぞれ意見をいただきました。

○笛吹川東地域：自然災害が少なく治安の良い、利便性の高い子育てしやすい地域。個人商店が残る人情味のある街をPRしたい。

○笛吹川西地域：都会と田舎が凝縮された地域。心豊かに暮らせる街、互いに支え合い、安全で安心して暮らせる街。暮らしやすさに困難を生じる地域に光が当たる行政を願う。

○牧丘地域：義務教育学校をPRし子どもや移住する家族を増やしたい。地域の足となる移動手段の確保が必要。当たり前前のことが当たり前前にできる生活を。

○三富地域：災害時や将来を見据えた三富バイパスの整備継続、西関東連絡道路の延伸を望む。旧三富小学校の再活用や新たな産業の誘導。

●今後の山梨市のまちづくりに向けた展望



続いて、住民プランへの感想と併せて、今後の計画策定の視点も含め、山梨市のまちづくりに向けた展望や、その実現に向けた考えなどについて、専門的な見地も含めて各パネリストにお話をいただきました。

○高木市長：これぞ「山梨市」というイメージを持ってもらえるようなまちづくりを推進したい。アザレアタウン整備事業、山梨市駅南口工場跡地の活用は本市の100年の計に資する。市のプロモーション強化により定住人口の増加などにつなげたい。

○大山名誉教授：人口が減少していく中どんな生活をし、そのために必要な社会基盤は何かを考えることが重要。課題解決のためには山梨市の良いところを探し、それを伸ばし、住民の思いを契機として行政が頑張り伸ばしていくことが必要。

○北村名誉教授：笛吹川東地域は、情報基盤を含めた基盤整備、幹線道路網の確立など拠点としてのまちづくりが必要。観光は地元のお客さんと観光客を取り込み商業の活性化を含めて地道にゆっくり進める。笛吹川西地域と牧丘地域は、歴史や文化をテーマ化し自然と連携させた活性化。新たなインパクトが必要。三富



地域は、登山・山岳の自然を保全しながら活用。産学官で全体を解説する施設が欲しい。

○雨宮山梨県都市計画課長：山梨市駅周辺を拠点としたまちづくり。県の施策として拠点の基盤整備を推進するのが1つ。また、都市と中山間地域の連携が大切。提案にあった都市づくりの多様性は重要で、まちづくりにつなげてほしい。

●会場意見交換

これまでの住民プランの提案や各パネリストの発言を踏まえて、会場意見交換に移りました。

意見交換は、来場者も含めて行うことにより、市民提案をより深め、充実したものにすることを主旨としています。会場で挙手をいただきながら進行しました。（来場者の主な発言により、各パネリストと意見交換を進行）

○会場（男性）：一番重要なのは動線。山梨市を表すモニュメントのようなものが必要で、人の流れをいかに山梨市に持ってくるか、道路の整備や鉄道の流れが重要と考える。

○会場（女性）：企業誘致と移住誘致の結果を出していくことが必要。そのために、鉄道など新たな交通インフラの仕組みづくりができないか。また、ジッパーのような次世代交通システム、新たな公共交通導入の可能性はどうか。

○会場（女性）：山梨市駅南口工場跡地の活用。山梨市は首都圏から距離がちょうど良く、自然の空気が良い。高齢者にも視点を向けたリハビリを含めた老人ホーム施設はどうか。鼓川温泉や、岩手の枝垂れ桜など歴史文化資源の活用も積極的に行ってほしい。



シンポジウムを終えて



シンポジウムの開催を経て、多くの市民の方々と山梨市のまちづくりについて考え、改めて市や地域の現状、未来を見つめ直すことができました。

有意義な時間をとともに過ごし、このような成果へ結びつけることができました。来場者やパネリスト、住民ワークショップ参加者など、多くの皆さんに感謝し、今後の都市計画マスタープラン策定に活かしていきたいと考えます。

■会場一言アンケート

来場者に配布した「一言アンケート」は53通の回収でした。

「まちづくり住民プラン」と住民ワークショップの活動への賛辞が多くを占め、また、山梨市のまちづくりに向けた意見・提案も数多くありました。

これらの貴重なご意見も踏まえ、さらに、今後の山梨市のまちづくりにつなげていきたいと思います。



※詳細をお知りになりたい方は、事務局までご連絡ください。



事務局：山梨市都市計画課

住 所：〒405-8501 山梨県山梨市小原西 843

電 話：0553-22-1111(代) / FAX: 0553-23-2800

